

## V. 特記事項

### 1. 新型コロナウイルス対策への対応

新型コロナウイルス感染症への対策では、令和2(2020)年4月に新型コロナウイルス感染症対策本部拡大幹事会を立ち上げた。理事長、総長、大学・短大学長をはじめ、附属中高校長、附属幼稚園園長、各部局長・責任者等がメンバーとなり、毎月1回拡大幹事会を開催し、令和5(2023)年2月まで39回開催された。

さらに、新型コロナウイルス感染症対策では、その予防策の中核となる新型コロナワクチンの「大学拠点接種(職域接種)」について本学を会場に実施した。ワクチン接種については、コロナウイルスの感染防止に関する地域貢献としても位置付け、学生・生徒、法人教職員をはじめ、附属幼稚園保護者、福島高専学生・教職員、市内の専門学校生、地域住民にまで広がった。ワクチンの接種期間は、令和3(2021)年7月から始まり、令和5(2023)年1月まで計18回にわたり実施され、接種は延べ3,292人にも及んだ。この試みは、文部科学省から「大学拠点接種における地域貢献」として認定された。

### 2. SDGs へのアプローチ

本学では、平成27(2015)年9月に開催された「国連持続可能な開発のためのサミット」で採択された「持続可能な開発のための2030年アジェンダSDGs(Sustainable Development Goals)」に対応する活動を実施してきている。令和3(2021)年12月に大阪大学で開催された、サステイナブルキャンパス推進協議会(CAS-Net JAPAN)の第9回年次大会において、東日本国際大学ライオンズクラブの「NPOと連携した福島浜通り地域のサステイナブルキャンパスづくり」が、「サステイナブルキャンパス賞2021」を受賞した。

また、「復興学」などの授業において、SDGsの17の目標について取り上げ、学生とともにその学習を進めるとともに、東京五輪・パラリンピックで使用された水素自動車(燃料電池車)をSDGs推進の観点から2台購入した。

さらに、本学のゴミ拾いサークルは、令和4(2022)年12月に三重大学地域イノベーションホールで開催された、一般社団法人サステイナブルキャンパス推進協議会の分科会において、「東日本国際大学ゴミ拾いサークルの実践」と題する発表を行った。

### 3. ウクライナ留学生の受け入れ

令和4(2022)年2月に始まったロシアのウクライナに対する軍事侵攻の影響で、ウクライナの大学生等が学業を継続できない方が数多く出てきていた。こういったウクライナの若い人たちを支援するため、本学では、留学生別科でウクライナの大学生等を受け入れることとした。主に、①留学生別科の授業料免除、②学生寮等の宿泊施設の提供、③国際部を中心とした日常生活面のサポート、④日本財団への支援費申請等の支援を実施している。令和4(2022)年度春学期に4人、同秋学期に7人の計11人のウクライナ人学生の入学を許可した。ウクライナ人留学生は、様々な地域活動に招待され、いわき市をはじめとする地域の方々からも多大の経済的な支援を頂いた。さらに、その活動については、テレビ、新聞等でも積極的に取り上げられた。